

## 2020年度 学校経営の方針

教育目標 「よく考え助け合う子ども」 ikosudo

学校経営の重点 「『愛』と『信頼』に裏打ちされた教育」の実現

育てる力 『伝える力』 『認める力』 『律する力』

### 目指す子どもの姿

- ・学び合い、共に高まる子ども（主体性）
- ・かかわり合い、相手を思いやる子ども（思いやりを行動で示せる）
- ・自分と向き合い、自ら鍛える子ども（自己調整）

### 校長からのあいさつ



この4月より、小須戸小学校に参りました中林浩子です。これまでの中学校での経験を生かし、小学校教育に中学校教育のよいところを取り入れながら、これからの時代を見据えて、小須戸小学校の子どもたちのために力を尽くします。

今年度の小須戸小学校は、教職員数25名、児童数237名、学級数11学級でスタートしました。

「愛」と「信頼」に裏打ちされた教育でなければ、教育の効果は限定的なものになってしまっただけでなく、危機に際して、学校は機能不全に陥ってしまいます。

子どもと接すれば接するほど、保護者と接すれば接するほど、教職員同士も接すれば接するほど、いっそう信頼関係が深まっていく、そんな人間味があって魅力のある、市民感覚を持ち合わせた教職員集団を目指していきます。

小須戸小学校の教職員である私たちは、本校に在籍しているすべての子どもの全人的成長のためにあります。これが、私たち全員の大きなミッションです。

学校は、子どものためにあります。学校の教育活動の中核は授業です。そして、危機は、いつでもどこにでも起こり得ることを全教職員が肝に銘じ、真摯で謙虚に教育活動に努めて参ります。

保護者の皆様、地域の皆様、小須戸小学校をよろしく願いいたします。

## <学校経営に当たって校長の思い>

- ・**マインドセットの転換**: 経験(レファランス)を大事にしながら, 経験に縛られない。

世の中が, 「新しい生活様式」へと転換していかなければならない現在, 学校も「これまでどおり」「昨年度踏襲」から脱却して, 新しい学校文化・教育活動にシフトチェンジしていかなければならない。

- ・**失敗を恐れない**: 失敗しない人などいない。「我々も間違う」ことが前提。

新しいことにチャレンジすることは, 誰もが不安。その思いを同調するのではなく, 共感しながら, 「その人に解決する力がある」ことを信じ, サポート(伴走)する教職員でありたい。

- ・**対立は考えの対立であって, 人との対立ではない**: 解決のためには『相互理解』が大切

人生は対立の連続。何かをしようとするれば, 必ず, 対立は起こるもの。それぞれの立ち位置から言っていることは, その人にとっての正論。その人の立場になって, まずは理解から。そして, 自分の思いもアサーティブに伝える。お互いに相手の考えや思いを理解して, はじめて解決に向かえる。

- ・**意見の一致とは, 勝ち負けでも多数決でもない**: 互いにWin-Winを見出し, そこに向かう。

勝ち負けや, 多数決は, Win-Lose。イエスマンはLose-WIn。関係ないはLose-Lose。何かをしようとした時, Win-Winの課題解決を目指す。それが, 自他に敬意を払うことでもある。

- ・**言葉遣いと非言語が雰囲気をつくる**: 自戒を込めて, 相手だけでなく周囲への配慮を。

誰もが人として尊重され, 大切にされなければならない。私たち教職員はもとより, 来校する業者の方も, 地域の方も, 保護者も小須戸小学校を支えてくれる大切な人たちである。

- ・**常に, 「子どもの何を育てているのか」を意識した教育の実践と生徒指導を意識する。**

人は誰でも, 心にゆとりがなくなると, ついつい行動や言動に引っ張られる。手がかかる行動も目に余る言動も, その子にとっての肯定的な意図がある。見えないものを見る心, 聞こえない声を聞く心, 言葉にできない思いを通訳したり伝えたりできる力を磨く。